



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話{(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222) 7207番

96.6.8 No.4407

「国労が列車妨害の犯人と 言いだしたJR総連を許すな!

えっ「国労が列車妨害の犯人」

JR総連 JR東労組は、この間頻発している列車妨害事件について、何と機関紙で、「背後に国労の黒い影がうごめいている」と言い出した。「国家権力がJR東日本の経営陣とJR東労組を破壊する謀略をしかけて」おり、国家権力にプロモートされた国労」がその手先になつていてというのだ。しかし、一体どういう訳で、誰ひとり信じるはずもない、このようなウソ、悪質なデマを言い出したのか。そこが問題だ。

そればかりではない。五月十六日に開かれた連合の中央執行委員会、JR総連書記長の柴田は、「JR内外には依然として分割・民営化反対を叫んでいる者がいる。(列車妨害事件は)そのような者たちの犯行ではないかと見ている」と主張して、連合の対応を求めているのだ。ここでは、「国家権力が国労をプロモートしてやらせている謀略だ」という「謀略論」すらやめてしまい、直接「分割・民営化反対を叫ぶ者が犯人だ」というのである。これは、国労や動

労千葉や清算事業団一〇四七名、そして全国の国鉄闘争支援勢力が犯人だというに等しいことだ。耳を疑いたくなるような主張だ。

もはや、なり振り構わず!

しかし、ただひとつ明らかなのは、彼らは、なり振り構わずに、どんな手段を使つても動労千葉や国労を破壊するしかないと考えているということであり、また、JR総連・革マルの組織的危機が、誰からも相手にされるはずもないデマに寄りかかるしかないところまで、想像を超えて進んでいるということである。

とすれば、一連の組織的な列車妨害事件も、JR総連と関係するグループによつて、国鉄闘争を破壊するために引き起こされていると考えざるを得ない。しかもこのように言う背景には、たんなる憶測だというだけでは済まずこのできない、この数年間の事実がある。

列車妨害事件、その異様な脈絡

【九一年—九三年】

九一年から九二年にかけて、JR西日本・東海・九州・四国労組が次々とJR総連を脱退し、JR総連は、箱根以西では、ごくひと握りの少数派に転落した。このときに直ちに起きたのは、尾行して盗み撮りした写真とか盗みだした資料を使った「女性スキヤンダル」によるJR東海葛西副社長に対する脅迫・辞任要求運動であり、新幹線を対象として無数に起きた針の埋め込み事件であり、チェーンプロックを使った二度にわたる新幹線転覆未遂事件だった。

【九三年—九四年】

九三年末、旧鉄労系が仙台で脱退して東新労を結成、九四年六月には、週間文春に「JRの妖怪」記事が連載され、運輸省と国労の交渉がさかんに行なわれる状況のなかで、九四年一月に二〇二億訴訟の和解が成立する。とくに、二〇二億和解は、JR総連・革マルが「用済み」となったことを意味した。

ここでも次々と異様な事件が起きる。まず、週間文春が、JR総連・当局一体となった攻撃でキヨスウから掃された。九四年秋から翌春にかけては、東京で、JR東労組が裏で組織的に指導するかたちで、「防護無線発報運動」が行なわれ、毎日のように至る所で防護無線が発報されてダイヤはガタガタになった。また、二〇二億合意の二週間前には、原因不明の新宿変電所火災事件が起きている。

【九五年—九六年】

二〇二億和解以降、国労と運輸省との交渉が頻繁にもたれ、九五年五月、一〇四七名問題の「運輸省解決案」が発表される。運輸省は、JR総連・革マルとJR東日本の異様な癒着体制にメスを入れようとした。これに対し革マル派は、「国労が運輸大臣らに秘密献金」などというオウムばりの自作自演のデマを流し、国労や支援労組・文化人などに一斉に攻撃を開始した。松崎もこれと軌をいっにして「国労の最後の解体を叫びだす。九五年一月、新潟でグリー

ンユニオンが結成される。翌九六年三月二〇日には、春闘の最中に、JR東労組副委員長をはじめ、旧鉄労出身の中執四名の統制処分が行なわれている。ついに、松崎の足元まで組織崩壊の危機が及んだのである。

今度は、こうした事態を背景として、三月以降、列車妨害事件が激増・頻発しているのだ。しかも、その前段では、グリーンユニオン関係者宅への盗聴事件で革マル派活動家が逮捕されたり、「JRの妖怪」著者宅に空き巣が入り、関係資料が大量に盗まれて、取材源と目したと思われるJR東日本関係者宅に脅迫文書が送りつけられる等の異様な事件も起きている。

ファシスト労組

そして、ついにJR総連や革マル派は、「国労が列車妨害の犯人だ」と言い出したのである。ここから何が見えてくるか。一連の列車妨害事件は、どう考えても、JR総連と関係したグループによつて引き起こされているとしか考えられない、という結論である。また、この間の一連の事態を見たとき、われわれは、JR総連をたんに右よりの組合だと言つてすまずことはできないと考える。「ファシスト労組」としか表現のしようがない。このJR総連との対決が、国鉄闘争をめぐる新たな攻防戦の焦点になつた。全力で決起しよう。